

人権通信 2 年人権講話「デートDV」の感想

2 年生で四天王寺大学の上野先生が「デートDV」の講演をしていただきました。講演を聞いた生徒の感想の抜粋を載せました。皆さんもこのことについていろいろ考えてみてください。

「デートDV」という言葉をいじめに置き換えても意味が通じる場合が多いです。そう思って、抜粋を読んでください。誰もが安心できる学校になってほしいと思っています。そのために皆さんがこのことを考え、行動してくれることを期待しています。

デートDV とは、彼女、彼氏としてつきあっている相手との間の暴力だということを知りました。デートDV には種類があります。なぐる、たたくなどの身体的暴力、相手に許可をもらわず抱きつく性的暴力、脅迫する、束縛する、馬鹿にするなどの精神的暴力があることが分かりました。彼女、彼氏の間で起こることなので、傍らから見ると身体的暴力に気づくことはできても、性的暴力、精神的暴力には気づきにくいと思いました。自分の周りで起こっていないかと注意深く見るようにしたいです。デートDV は自分にとって無関係なことではないのだと思いました。つきあっていれば普通だと感じるような、デートでいきなり手を握ることや、LINE 返事が遅いと文句を言うことなども、場合によっては暴力になると知って驚きました。

暴力の見分け方があります。暴力かどうかは、暴力した側がどんなつもりかは関係がありません。そのせいで支配的な関係が生まれたら、それは暴力であることが分かりました。デートDV を防ぐためには「した側に理由」ではなく「された側の気持ち」を考えるようにしたいです。

彼女がしたいことをできなくするようにコントロールすることはDV になるのだなと思いました。彼女がハッピーでいてほしい。だから、自分自身の感情をコントロールしなければならないと思いました。難しいな。でも、やらなくては。

軽いことでも積み重なって相談できないで苦しんでいる人がいるんだなと思った。そんな状況にいる人がいたら、助けてあげたい。

デートDV を受けないようにするためには自分の気持ちをしっかりと伝えることが大切だと分かった。

デートDV でされた側が支配されるようになることは、本当に最悪だと思いました。のびのびできなかったり、びくびくしてしまうなど自分に自信が持てなくなり、いやだなと思いました。